



6

新聞を読むことが習慣になった子どもたちは、よく読み、よく書き、よく考えて、よくしゃべるようになってきました。そんな子どもたちが活躍できる社会になるのでしょうか。

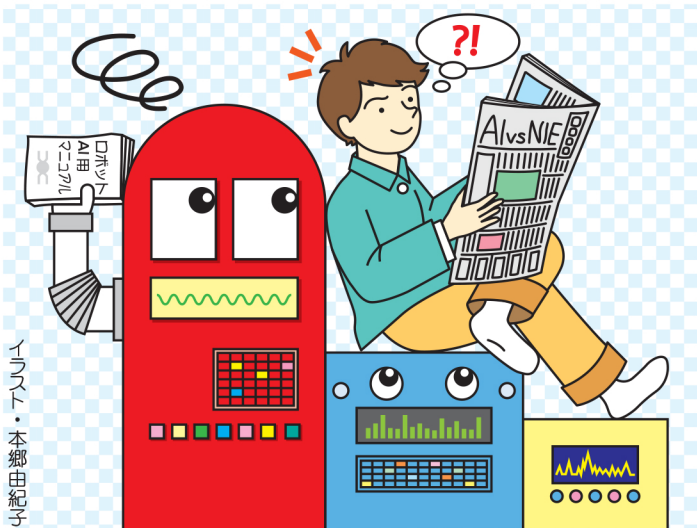
て自動化されることも。近未来は、今までと同じような考えと動きでは活躍できない時代になります。また、答えが予測できない時代になります。つまり、これまでの授業や学習を続けていたのでは不十分なのです。

文部科学省は、新学習指導要領で資質・能力の育成を強調しています。これからは、何を記憶するかではなく、何ができるようになるかが大切だといわれています。

さらに文科省は、身に付けるべき資質・能力の代表として、思考力、判断力、表現力を挙げ、コミュニケーション力も重視しています。これからは多様な仲間と協働して、創造性に富んだ発想で実践していくことが求められているのです。

せきぐち・しゅうじさん
1955年東京生まれ。
東京学芸大を卒業後、東京都公立小学校教員として勤務。その間(91〜2007年)、群馬大教育学部非常勤講師。北区滝野川小など3校で校長を務め、16年4月から現職。

AI・ロボが苦手な力 育む



イラスト・本郷由紀子

なぜなら、これらの力はAIやロボットが苦手とするものだからです。

そこで新聞の出番です。新聞は、複雑な社会を確かな情報と多面的で多角的な見方・考え方であぶり出してくれます。新聞に接した子どもは、社会の在り方に関心や疑問をもち、思考をめぐらし対話へと向かいます。つまり、NIEはこれからの社会で求められる力を育むのです。

例えばスマートフォン。子どもたちはどのように付き合っていけば良いのでしょうか。次回は、このことについて考えてみます。

（日本新聞協会NIEコーナー）
ディネーター 関口修司
|| 次回は1月7日掲載 ||

実践

▼コラム▲

力試し

現場